

# 2019年度運動方針を決定!

～松岡衛 新中央執行委員長率いる新体制のもと、取組みをスタート!～

8月21日、都内ホテルで中央代議員109名出席のもと、第51回定期大会を開催しました。本大会で、2019年度運動方針を全会一致で決定するとともに、役員改選により、松岡衛中央執行委員長をはじめとする新執行部体制が誕生しました。

(新執行部の顔ぶれは3面をご覧ください)

冒頭、大北前中央執行委員長より、「本年10月に結成50年を迎え新たな時代へと踏み出す生保労連が、今後様々な課題に対しいかにして取り組んでいくかを確認・共有し、みなさんと一層団結して、生保労連の運動・活動のスタートを切っていきたい」との力強いあいさつがありました。

また、連合の相原事務局長をはじめとする来賓の方々から、連帯と激励のあいさつをいただきました。

1年間の取組み報告では、2018年度の一般活動経過報告・連



▲相原事務局長よりあいさつをいただく

合報告のほか、「総合生活改善闘争（2019春闘の取組み）の成果と課題」および「労連運動の今後の方向性に関する研究会」について特別報告を行いました。

2019年度の運動方針については、活発な議論を経て全会一致で決定され、引き続き4つの柱に沿って、運動を推進していくことを確認しました。

また、特別委員会として「営業職員体制に関するプロジェクト」「2019財政フォローアップ委員会」を設置することが確認されました。

最後に役員改選により、松岡新中央執行委員長をはじめとする新執行部が選出され、確認された運動方針に沿った取組みを力強く進めていくことを誓い合いました。

## 2019年度運動方針の4つの柱

- I. 生保産業の社会的使命の達成
- II. 総合的な労働条件の改善・向上
- III. 組織の強化・拡大
- IV. 生保産業と営業職員の社会的理解の拡大

## 中央執行委員長挨拶



# 組合員のみなさんの気持ちや想いを胸に チャレンジし続けます

生保労連第51回定期大会において中央執行委員長に就任しました松岡衛です。歴代委員長が紡いできたバトンを大北前委員長から受け継ぎ、身の引き締まる思いでいっぱいです。新執行部一丸となって、諸課題の一つひとつ丁寧に向き合いながら取り組んで参ります。

## 結成50年を迎えるにあたり

生保労連は本年10月に結成50年を迎えます。1969年10月に、生保産業唯一の産業別労働組合として生保労連が結成されて以来、目まぐるしい環境変化の中でも、「生保産業で働く仲間のしあわせの実現」に向けて一貫して取り組むとともに、数々の難局も加盟組合の英知を結集して乗り越えてきました。今日の生保労連があるのも、組合員のみなさんのご理解・ご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

## 生保産業の役割発揮の原動力は「人」の力

生保労連は、向こう10年間を見据えた中期ビジョンとして「チャレンジビジョン2030」を取りまとめました。そこでは、「めざす姿」の一つとして「組合員や社会に大きく貢献して

いる組織」を掲げ、その実現に向けて「組合員や社会から共感・信頼を得られる運動」を追求していくこととしました。結成50年という大きな節目に立つ私たちは、次なる一步を、この「チャレンジビジョン2030」とともに踏み出して参ります。

その際、生保労連が2017春闘から掲げている「人への投資」の考え方も、運動を進めていくうえで大きな拠り所になると考えています。生保産業はお客さま一人ひとりに寄り添うことが大切な産業であるため、その役割発揮に向けた原動力となるのは「人」であり、厳しい環境を乗り越えられるのも「人」の力といえるからです。生保労連としても、組合員のみなさんが存分に役割発揮できるよう、最大限の後押しをして参ります。

## 組合員のみなさんの想いを胸に

生保産業には、お客さまへの感謝の気持ちをもって日々その対応に邁進する営業職員と、さまざまな分野でそれを支え活躍する内勤職員が働いています。私たちは今後も、額に汗して働く組合員のみなさんの気持ちや想いを胸に、運動の原点や先人たちの想いを忘れず、新たな時代の諸課題に果敢にチャレンジして参ります。どうぞよろしくお願いたします。

